

平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 株式会社 ネクシーズ

上場取引所 東

コード番号 4346 URL <http://www.nexyz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 太香巳

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長 (氏名) 松井 康弘 TEL 03-5459-7444

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	1,773	4.6	△64	—	△56	—	△91	—
25年9月期第1四半期	1,695	△10.3	△120	—	△115	—	△102	—

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 △102百万円 (—%) 25年9月期第1四半期 △133百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	△7.18	—
25年9月期第1四半期	△8.09	—

(注) 当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を10株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第1四半期	9,008	6,484	38.7
25年9月期	8,659	6,667	41.9

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 3,485百万円 25年9月期 3,632百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	7,800 ～8,500	3.8 ～13.1	500 ～600	24.5 ～49.4	500 ～600	22.9 ～47.5	250 ～300	△81.4 ～△77.7	19.72 ～23.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期1Q	13,413,640 株	25年9月期	13,413,640 株
② 期末自己株式数	26年9月期1Q	727,930 株	25年9月期	738,670 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年9月期1Q	12,675,467 株	25年9月期1Q	12,677,540 株

(注)平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を10株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する詳細は、添付資料の5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府の金融・財政政策、経済対策を背景に円高是正や株高が進み、輸出採算の向上と内需回復に伴う企業収益の改善や消費税増税を見込んだ駆け込み需要で個人消費が増加したほか、設備投資にも持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復傾向を維持しております。しかしながら、円安による輸入価格の上昇や新興国経済の不安感により、経済環境の先行きは不透明な状況となっております。GDPの伸び率は、13年7月～9月に0.3%増となりました。消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、前年同月比0.9%～1.3%の間で推移し、緩やかな上昇基調で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループではライフアメニティ事業、ソリューションサービス事業、文化教育事業の3事業を展開しており、各事業の経営資源を最適配分・有効活用していくと同時に、取り扱う商材や業務の見直しにより、収益力の強化に向けた経営基盤の構築を図ってまいりました。

なお、前連結会計年度より開始した、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務の業容拡大等に伴い、当第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「ブロードバンド事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」から、「ライフアメニティ事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」に変更しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、ライフアメニティ事業において、LED照明レンタルサービスの導入店舗・施設数が増加し、販売手数料収入が増加いたしました。一方で、当該業務の拡大に伴う部門間の営業人員の異動により、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の新規会員獲得業務は規模を縮小しての営業となりました。ソリューションサービス事業においては、国内の活況な株式市場を受け、個人投資家の取引が増加したことで、金融商品仲介業務が好調に推移いたしました。また、新たな電子雑誌「政経電論」の制作を受託いたしました。その他の業務につきましても、概ね堅調に推移いたしました。文化教育事業においては、きものや帯の販売が好調で、呉服・和装小物の販売収入が増加いたしました。授業料収入につきましても概ね堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高1,773百万円（前年同四半期比4.6%増）、営業損失64百万円（前年同四半期営業損失120百万円）、経常損失56百万円（前年同四半期経常損失115百万円）となり、四半期純損失は91百万円（前年同四半期純損失102百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は次のとおりであります。  
 なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づき記載しております。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供及びLED照明等各種環境関連設備の販売・仲介並びに、DNA検査に基づく健康コンサルティング業務等を行っております。  
 当第1四半期連結累計期間においては、LED照明レンタルサービスの導入店舗・施設数が増加し、販売手数料収入が増加いたしました。DNA検査に基づく健康コンサルティング業務では、DNA検査プログラム「DNA美容」の導入店舗数が堅調に推移したほか、提携するエステサロン等に対して商材説明会を開催し、DNA検査の新規申込件数の増加を図ってまいりました。一方で、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務の拡大に伴う部門間での営業人員の異動により、前年同四半期に比べ、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の新規会員獲得業務は規模を縮小しての営業となりました。

これらの結果、ライフアメニティ事業は、売上高716百万円（前年同四半期比0.3%減）、セグメント損失53百万円（前年同四半期セグメント損失36百万円）となりました。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、企業や店舗等の個人事業者向けに様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。当第1四半期連結累計期間においては、前連結会計年度より引き続き国内の活況な株式市場を受け、個人投資家の取引が増加したことで、金融商品仲介業務が好調に推移いたしました。また、平成25年11月に8誌目となる新たな電子雑誌「政経電論」の制作を受託し、更なる業容拡大に努めてまいりました。既存の電子雑誌「旅色」「GOODA」の広告掲載数につきましても、好調に推移しております。業務受託テレマーケティングにつきましても、幅広い業種業態のクライアント企業から継続的に案件を受注することで、安定した業務受託収入が得られております。

これらの結果、ソリューションサービス事業は、売上高516百万円（前年同四半期比21.6%増）、セグメント利益76百万円（前年同四半期比262.5%増）となりました。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。当第1四半期連結累計期間においては、きものや帯の販売が好調で、呉服・和装小物の販売収入が増加いたしました。また、費用対効果を見定めた諸経費の見直しを図り、削減に努めたことで広告宣伝費や販売促進費等が減少いたしました。前年同四半期に比べ、新規生徒の募集環境が厳しい状況下にあるものの、足元の生徒数は増加基調にあり、授業料収入につきましても概ね堅調に推移しております。一方で、呉服・和装小物の販売収入の増加に伴い、商品の仕入れに関連する費用や値引き等の増加がありました。

これらの結果、文化教育事業は売上高610百万円（前年同四半期比0.4%増）、セグメント利益5百万円（前年同四半期セグメント損失6百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は9,008百万円となり、前連結会計年度末に比べて348百万円の増加となりました。

① 資産の状況

(流動資産)

流動資産は5,586百万円となり、前連結会計年度末に比べて226百万円の増加となりました。これは主に、未収入金が22百万円減少した一方で、現金及び預金が146百万円、受取手形及び売掛金が88百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は3,421百万円となり、前連結会計年度末に比べて122百万円の増加となりました。これは主に、当社連結子会社である株式会社ブランジスタ株式の追加取得等により、のれんが76百万円増加したことに加え、敷金及び保証金が69百万円増加したことによるものであります。

② 負債の状況

(流動負債)

流動負債は2,468百万円となり、前連結会計年度末に比べて536百万円の増加となりました。これは主に、未払法人税等が142百万円減少した一方で、短期借入金が600百万円、未払金が94百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は55百万円となり、前連結会計年度末に比べて4百万円の減少となりました。これは主に繰延税金負債が3百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は6,484百万円となり、前連結会計年度末に比べて183百万円の減少となりました。主な内訳は、四半期純損失の計上等により株主資本が152百万円減少したことに加え、少数株主持分が36百万円減少したことによるものであります。

以上により流動比率は226.3%となり前連結会計年度末比51.0ポイント減少いたしました。株主資本比率は38.7%となり前連結会計年度末比3.2ポイント減少いたしました。一方で、時価ベースの株主資本比率は132.8%となり前連結会計年度末比73.5ポイント増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年9月期の業績予想につきましては、平成25年11月15日に公表いたしました「平成25年9月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおりであり、業績予想は修正しておりません。なお、今後の各事業の取り組み、業績予想については、以下のとおりであります。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供及びLED照明等各種環境関連設備の販売・仲介並びに、DNA検査に基づく健康コンサルティング業務等を行っております。

当第1四半期に、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務の営業人員を増員しており、増員に伴う研修等により一時的な費用負担はあるものの、クライアント獲得による販売手数料収入の増加が見込まれます。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、企業や店舗等の個人事業者向けに様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。テレマーケティングを活用した販売促進支援業務や、金融商品仲介業、企業から委託を受けて発行する電子雑誌制作業務並びに新規広告クライアントの獲得業務を行っております。

金融商品仲介業では、株式等の市況の活況により、売買手数料収入が増加する一方で、少額投資非課税制度の開始に伴う販売促進費の増加が見込まれますが、販売促進支援業務における安定した案件の受注などにより、引き続き堅調に推移すると見込まれます。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。

当第1四半期においては、呉服や和装小物の販売が計画を上回る一方で、商品の仕入れに関連する費用や値引きが増加いたしました。成人式や卒業式における着付けによる手数料収入の増加や、呉服・和装小物の販売会による収益の増加などにより、概ね予想通りに推移すると見込まれます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
  
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
記載すべき重要な事項はありません。
  
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。



3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,866,803	3,013,565
受取手形及び売掛金	1,435,163	1,523,393
商品	101,751	102,487
未収入金	484,425	461,530
その他	523,407	543,554
貸倒引当金	△51,257	△57,706
流動資産合計	5,360,293	5,586,825
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	213,791	218,102
その他(純額)	152,994	157,374
有形固定資産合計	366,785	375,476
無形固定資産		
のれん	114,783	191,278
その他	171,523	150,845
無形固定資産合計	286,306	342,123
投資その他の資産		
投資有価証券	1,876,309	1,866,758
敷金及び保証金	410,683	480,374
その他	439,850	442,604
貸倒引当金	△80,514	△85,652
投資その他の資産合計	2,646,328	2,704,084
固定資産合計	3,299,420	3,421,684
資産合計	8,659,713	9,008,509
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	306,935	316,702
短期借入金	600,000	1,200,000
未払金	495,101	589,915
解約調整引当金	98,137	80,214
その他	432,525	282,019
流動負債合計	1,932,699	2,468,852
固定負債		
その他	59,654	55,342
固定負債合計	59,654	55,342
負債合計	1,992,353	2,524,195

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,189,156	1,189,156
資本剰余金	1,134,423	1,134,423
利益剰余金	1,667,375	1,510,043
自己株式	△340,246	△335,709
株主資本合計	3,650,710	3,497,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△18,272	△12,218
その他の包括利益累計額合計	△18,272	△12,218
新株予約権	365	360
少数株主持分	3,034,556	2,998,256
純資産合計	6,667,359	6,484,314
負債純資産合計	8,659,713	9,008,509

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,695,244	1,773,844
売上原価	1,084,733	1,110,260
売上総利益	610,511	663,584
販売費及び一般管理費	731,310	727,765
営業損失(△)	△120,799	△64,181
営業外収益		
受取配当金	1,921	—
受取手数料	378	2,788
持分法による投資利益	2,795	2,951
その他	1,135	2,398
営業外収益合計	6,230	8,139
営業外費用		
支払利息	775	447
その他	428	23
営業外費用合計	1,203	470
経常損失(△)	△115,773	△56,512
特別損失		
固定資産除却損	9,734	18
事業所移転費用	—	10,271
減損損失	—	16,106
特別損失合計	9,734	26,396
税金等調整前四半期純損失(△)	△125,507	△82,909
法人税、住民税及び事業税	9,808	11,016
法人税等調整額	—	14,348
法人税等合計	9,808	25,365
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△135,316	△108,274
少数株主損失(△)	△32,759	△17,263
四半期純損失(△)	△102,556	△91,011

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△135,316	△108,274
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,123	6,054
その他の包括利益合計	2,123	6,054
四半期包括利益	△133,192	△102,219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△100,432	△84,956
少数株主に係る四半期包括利益	△32,759	△17,263

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフ アメニティ 事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	717,486	370,054	607,702	1,695,244	—	1,695,244
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,343	54,736	185	56,264	△56,264	—
計	718,829	424,791	607,887	1,751,509	△56,264	1,695,244
セグメント利益又は損失	△36,198	21,222	△6,931	△21,908	△98,891	△120,799

(注) 1. セグメント利益の調整額△98,891千円には、セグメント間取引消去354千円、各報告セグメントに配分していない全社収益71,740千円、全社費用△169,145千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△1,841千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフ アメニティ 事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	700,453	462,976	610,414	1,773,844	—	1,773,844
セグメント間の 内部売上高又は振替高	16,518	53,390	20	69,929	△69,929	—
計	716,971	516,367	610,434	1,843,773	△69,929	1,773,844
セグメント利益又は損失	△53,117	76,931	5,083	28,898	△93,079	△64,181

(注) 1. セグメント利益の調整額△93,079千円には、セグメント間取引消去144千円、各報告セグメントに配分していない全社収益64,430千円、全社費用△155,686千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△1,968千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務の業容拡大等に伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「ブロードバンド事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」から、「ライフアメニティ事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

「ソリューションサービス事業」において、廃棄処分の決定した事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減損いたしました。当該減損損失の計上額は16,106千円であります。